

平成23年度 病害虫発生予報 第2号の発表について

向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・ 水稻では、イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの保毒虫率が高い値になっている地域があります。また、田植え後、本田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。
- ・ 施設栽培の野菜では、きゅうり及びピーマンのアザミウマ類の発生が多くなっています。
- ・ 果樹及び茶では、なしの黒星病及び茶のチャノコカクモンハマキの発生が多くなっています。

病害虫防除に関する留意点

- ・ 4月の天候は、冷涼な高気圧に覆われたため気温が低く、降水量が少なくなりました。しかし、1か月予報（5月13日気象庁発表）では、5月の平均気温は高くなると予想されており、病害虫の発生が多くなることが考えられます。
- ・ 病害虫防除を効果的に実施するためには、病害虫の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病害虫の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ 薬剤防除を実施する場合には、適切な薬剤を選択するとともに、病害虫が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。
- ・ 東日本大震災の影響等により作付けが困難となった地域では、ほ場の管理が行えないことで、雑草の繁茂等により作物を加害する病害虫の発生が考えられます。そのため、周辺で作付けが行われる地域では、ほ場観察を綿密に行い、状況に応じて防除ができるよう病害虫の発生状況に注意してください。

水稻

- ・ **イネ縞葉枯病**の発生は、東海の一部地域で「多い」と予想されます。
イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生は、近畿及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの保毒虫率が高い値になっている地域及び前年にイネ縞葉枯病が多発した地域においては、ヒメトビウンカの防除を適期に実施してください。
また、発病株は早期に抜き取り、適切に処分してください。
- ・ **イネミズゾウムシ**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、東北、南関東、近畿及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
育苗箱施用剤による防除を実施していない場合は、適期に本田での薬剤防除を実施してください。
- ・ 田植え後、本田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。

麦

- ・ **赤かび病**の発生は、北関東の一部地域で「多い」、北陸の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北東北及び近畿の一部の地域で「やや多い」と予想されます。
本病の防除は適期を逃さず行うことが重要であり、麦の種類に応じて、必ず以下の時期に最初の防除を行う必要があります。防除適期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に、確実に防除を実施してください。
また、病害虫防除所からの情報や、栽培品種の赤かび病抵抗性などを考慮して、必要に応じて追加の防除を実施してください。

麦の種類	最初に防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花期まで
二条大麦	穂揃い期の10日後頃
六条大麦	開花を始めた時期から開花期まで

野菜・花き

露地栽培

- ・ 気温の上昇に伴い病害虫の動きも活発になるので、ほ場観察を行って病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に薬剤防除を実施してください。

施設栽培

- ・ 気温の上昇に伴い、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病害虫の施設への侵入または野外への飛び出しに注意が必要です。

- ・施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の風通しを図る等、過湿にならないように施設を管理してください。
- ・ウイルス病を媒介するアザミウマ類、コナジラミ類等の侵入または野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。
- ・栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

トマト

- ・灰色かび病の発生は、北陸、中国、四国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は、施設内が過湿になると発生が助長されるので、作物の株間の風通しを図る等、過湿にならないよう施設を管理してください。また、本病の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

きゅうり

- ・アザミウマ類の発生は、関東、東海及び北九州の一部地域で「多い」、四国的一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、発生密度が高くなつてからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での防除を実施してください。

ピーマン

- ・アザミウマ類の発生は、北関東の一部地域で「多い」、四国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、発生密度が高くなつてからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での防除を実施してください。

いちご

- ・ハダニ類の発生は、北関東の一部地域で「多い」、南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、発生密度が高くなつてからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での薬剤防除を実施してください。

発生が多い・やや多いと予想させる病害虫及び地域

作物／病害虫	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
トマト／		
うどんこ病	北関東	
灰色かび病		北陸、中国、四国、南九州
アブラムシ類	南関東	九州
ナス／		

うどんこ病		南関東
灰色かび病		北九州
アザミウマ類	北九州	
コナジラミ類	四国	
きゅうり／		
うどんこ病	北九州	南関東
つる枯病		四国
アザミウマ類	関東、東海、北九州	四国
コナジラミ類	南関東	四国
ピーマン／		
アザミウマ類	北関東	四国、南九州
アブラムシ類	四国	南九州
いちご／		
うどんこ病	北陸	中国、四国
灰色かび病	北陸	中国
ハダニ類	北関東	九州

果樹・茶

果樹共通

- ・ **果樹カメムシ類**の発生は、北東北の一部地域で「多い」、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、園地周辺の山林から飛来してくるので、例年カメムシ類の被害が多い園地や、山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期からの防除を実施してください。
- ・ 東日本大震災の影響等で園地の管理が行えない地域では、病害虫の発生が多くなることが懸念されます。隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行い、病害虫の侵入及び発生に注意してください。

かんきつ

- ・ **かいよう病**の発生は、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は連續した降雨により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
特に、強風による擦れなどの傷口から容易に感染するため、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。

- ・ **そうか病**の発生は、南関東及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は降雨が長時間続くことにより発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ミカンハダニ**の発生は、関東、東海及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は気温が高く雨が少ない場合に発生が多くなります。園内の観察をきめ細かく行い、発生初期からの薬剤防除を実施してください。

りんご

- ・ **モニリア病**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。
葉腐れ、花腐れ、実腐れなどの被害部を摘み取り、適切に処分するとともに、発病初期の薬剤防除を実施してください。
- ・ **黒星病**の発生は、東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。
発病葉、発病果及び発病した新梢は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。また、降雨が続くと発病が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **腐らん病**の発生は、北東北及び甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。
園内の観察をきめ細かく行い、罹病枝の除去、病斑部の削り取りと薬剤塗布を適切に実施してください。

なし

- ・ **黒星病**の発生は、南東北、北関東、北陸、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
発病葉、発病果及び発病した新梢は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。また、降雨が続くと発生が助長されるので、散布間隔が開きすぎないように注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、南関東、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」、**チャハマキ**の発生は、南関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの害虫は、成虫発生最盛日の7～10日後が薬剤防除適期になります。地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に、薬剤防除を実施してください。
- ・ **カンザワハダニ**の発生は、南関東及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫の多発が懸念される園地では、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノキイロアザミウマ**の発生は、東海及び北九州の一部地域で「やや多い」、**チャノホソガ**の発生は、南関東の一部で「多い」と予想されます。
園内の観察をきめ細かく行い、これらの害虫の発生に応じて二番茶の萌芽期から開葉期の薬剤防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成 23 年 4 月 19 日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。

- ・ 発表なし。

注意報

警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要が認められる場合に発表します。

発表月日	都道府県	対象作物名	対象病害虫
4月20日	福岡県	水稻	イネ縞葉枯病
4月21日	北海道	水稻	いもち病
4月28日	和歌山県	水稻	イネ縞葉枯病
5月12日	北海道	とうとう	灰星病
5月16日	茨城県	小麦	赤かび病

特殊報

新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表年月日	都道府県	対象作物名	対象病害虫名
4月28日	大分県	トマト	トマト葉かび病
5月2日	東京都	コマツナ	アヤトビムシ
5月2日	鹿児島県	トマト	トマト茎えそ病（仮称）
5月11日	香川県	ニンジン	キクノネハネオレバエ
5月16日	兵庫県	ピーマン	ピーマン炭疽病

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
- ・ 南東北：宮城県、山形県、福島県

- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

■ 発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10% の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20% の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40% の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20% の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10% の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

■ 平成 23 年度病害虫発生予報の発表予定

- 第 1 号：4 月 21 日（木曜日）
- 第 2 号：5 月 19 日（木曜日）
- 第 3 号：6 月 16 日（木曜日）
- 第 4 号：7 月 7 日（木曜日）
- 第 5 号：7 月 21 日（木曜日）
- 第 6 号：8 月 11 日（木曜日）
- 第 7 号：9 月 8 日（木曜日）
- 第 8 号：10 月 6 日（木曜日）
- 第 9 号：11 月 10 日（木曜日）
- 第 10 号：2 月 16 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班 黒谷、後藤

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-5976

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>